

俳句

1年目 ステップ2



おんせい
音声はこちら

ゆく^ゆ春^{はる}や 鳥^{とり}啼^なき魚^{うお}の目^めは泪^{なみだ}



まつ お ばしょう
松尾芭蕉

馬^{うま}の頬^ほ お 押^おしのけ摘^つむや すみれ^{ぐさ}草



すぎやま さんふう
杉山杉風

春^{はる}の海^{うみ} ひねもすのたり のたりかな



よ さ ぶ そん
与謝蕪村

あれ梅^{うめ}と いう間^まに曲^まがる 小舟^{こぶね}かな



こばやしいっ さ
小林一茶



おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ2

は
歯がたたない

あいて つよ
相手が強すぎてまったくかなわない。



かた も
肩を持つ

み かた
ひいきしたり味方したりすること。



こし お
腰を折る

とちゅう ひと はなし さえぎ
途中で人の話などを遮ってじゃまをする。



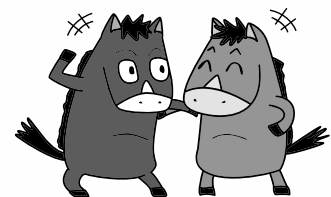
いた
板につく

しよくぎやう ひと あ かん
職業などがその人にぴったり合った感じになる。



うま あ
馬が合う

あいて き あ
相手と気が合ってうまくやっていける。





《言葉の単位》

言葉の単位を知ってるかい

言葉として これ以上小さくならない

もっとも小さな単位 それは 単語

単語 文節 文 段落 文章

文の小さな 一区切り 文節

句点までの言葉は 文という

文が集まり 段落に そして そして

考えや気持ちを表す文章と なっていく

これより小さくわけられません

単語にわけると・・・
ぼくはサッカーが得意です。

文節にわけると・・・

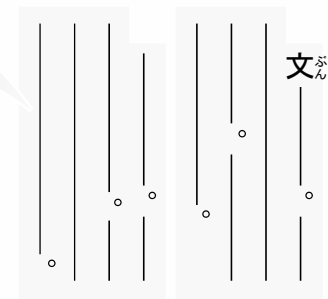
ぼくはサッカーが得意です。

文にわけると・・・

ぼくはサッカーが得意です。

文

文章
段落 段落





おんせい
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ2

た とり あと にご
立つ鳥跡を濁さず

立ち去る時は不名誉や汚点を残さず、残る人に迷惑をかけないようにすべきだ。



いし ばし わた
石橋をたたいて渡る

用心して十分に確かめてから慎重に行うことのたとえ。



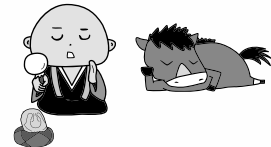
とう だい もと くら
灯台下暗し

身近なことはかえってわかりにくいものである。



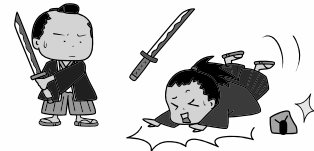
うま みみ ねんぶつ
馬の耳に念仏

いくら意見しても聞き入れず無駄であること。



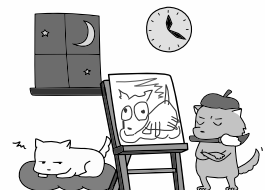
ゆ だん たい てき
油断大敵

油断は相手以上に怖い大敵であるから大いに慎まなければならない。



へ た かんが やす に
下手の考え休むに似たり

良い知恵がなければ、いくら考えても時間ばかり経って何の効果もない。



百人一首

1年目 ステップ2



おんせい
音声はこちら

田^た子^ごの浦^{うら}に
う^うち^ち出^いで^でて
富^ふ士^じの^の高^{たか}嶺^ねに^にば

雪^{ゆき}は^は白^{しろ}妙^{たえ}の^の
降^ふり^りつ^つつ

(山^{やま}部^べ赤^{あか}人^{ひと})

あ^あし^しび^びの^のき^きの^の
山^{やま}鳥^{どり}の^の尾^おの^の
長^{なが}々^{なが}し^し夜^よを^を
し^しだ^だり^り尾^おの^の
ひ^ひと^とり^りか^かも^も寝^ねむ^む

(柿^{かき}本^の人^{ひと}麻^ま呂^ろ)

